

【強化月間テーマ(3)「脱原発と暮らし見直し、平和で安心の社会づくり」

広瀬隆 講演会「脱原発を語る」

9月11日(日) 12:30開場 13:00開演 土浦市市民会館 大ホール

前売券持参 500円、当日 700円、高校以下無料

**広瀬隆 講演会
脱原発を語る**

土浦市市民会館 大ホール
9月11日(日) 12:30 開場
13:00 開演

1980年代より原子力発電の危険性を指摘してきた広瀬隆氏は、昨年「原子力時限爆弾」を著し、原発の危険性と地震発生メカニズムを解明し、原子力産業の現状と欺瞞を明らかにしました。警告が現実のものとなったいま、事故現場の実態や汚染についてのリアルな現状を知ることができます！と、氏の講演会には、各地で立ち見が出る勢いで人々が押し寄せています。子どもたちを守るために、正しい情報を知って、何が出来るか、何をすべきかを一緒に考えましょう。

前売券：500円
当日券：700円
(高校生以下無料)

— 広瀬隆プロフィール —
東京生まれ、早稲田大学理工学部応用化学科卒業。大学卒業後、メーカーの技術者を経て、執筆活動を開始。医学文庫等の翻訳に携わる。1980年代初期の著作に「安全というならば、送電線建設コストのかかる地方ではなく、電力の大消費地である首都圏に原子力発電所を建設してはどうか」と指摘した「東京に原発を」(NHK出版)が、原発と原発にむくむく入る『原発の迷宮』(集英社)の近著に「FUKUSHIMA 福島原発マルチタウ」(朝日新聞出版)・・・など著書多数。

主催 広瀬隆講演会実行委員会
共催 脱原発ネットワーク茨城
連絡先 坂本 繁雄 090-3094-7326
川口 玉留 029-826-6600
江口 昌子 099-4950-2584
長田 満江 099-7345-6599
小瀬在幸子 099-9105-0464

保育申込み 9月8日まで 1人500円
販売本数 090(33席)1430 種ママイト

も想定を越えていた」と言いますが、そんな言葉はただの言い訳です。大地震と原発事故が同時に起こることは十二分に考えられたのに、傲慢にも想定してこなかっただけです。東京電力も政府も「想定外」なんて言葉を安っぽく使うことは許されません。

けれども、こうして原発震災が現実になってしまったにもかかわらず、この国の人々に危機感がまだ広く伝わっていません。・・・大半のメディアは原発震災の危機を世の中に警告してこなかったばかりか、それが現実になっても、いまだに危機は存在しないかのような報道を流しています。たった今でも。

1995年1月の阪神大震災を引き起こした兵庫県南部地震を境に日本列島は地震多発の時代に入っています。福島第一原発の事故の深刻さを理解することができなければ、私たちはさほど遠くない将来、また第二、第三の原発震災に見舞われることは間違いありません。断言します。次のその危機は、絶対に回避しなければなりません。

第二、第三の原発震災の危機を警告すると、「パニックを起こすつもりか」と言われるかもしれません。しかしパニックというのは、人々が本当のことを知らされていないから起きるものです。放射線の危険を「ただちに影響は出ない」とあいまいに伝えられると、本当に影響が出始め



た時に、人々は大混乱に陥るでしょう。

人々は本当の危険性をしっかり教えてもらって初めて、沈着で、しかも迅速な対策がとれるのです。

原発震災の危機について私の知る限りのことをお話します。それを判断材料にして対策をとるかどうか、決めるのはみなさんです。『福島原発マルチタウ』より

むずかしい専門用語、それから「想定外」や「ただちに影響はない」といった言い回しは使わずにお話ししようと思います。・・・原子力発電所と地震のことについて私が知っている「当たり前の事実」と「近い将来の予測」を中心にお話ししてゆきますが、もしかしら、みなさんがほとんど知らないこと、知らされていないことばかりになるかもしれません。

福島第一原発の重大事故は、天災でも宿命でもありません。この悲惨な出来事は、悪意によって引き起こされた人災です。人知の及ばない自然災害と比べれば、はるかに容易に予測でき、この大きな危機をあらかじめ回避できた出来事なのです。東京電力の幹部などは「1000年に一度の巨大地震が起こることは想定できなかった」、「津波

9/11 広瀬隆講演会「脱原発を語る」前売券申込書

(9/5~9/9に前売券をお届けします。会場受付に出して下さい。入場が500円となります)

コース名 _____ 班名 _____ お名前 _____ 枚 _____

COOP-JOSO News Letter

常総生活協同組合
発行/副理事長 大石
tel:050-5511-3926

2011年度活動テーマ
発酵食品で放射能に打ち克つ健康づくり。人々の協力で被災地復興と大地再生。
発酵と復興

【ものづくり、人づくり、地域づくり】 震災・原発事故汚染から半年

2011年秋の「せいきょう強化月間」スタート！

【強化月間テーマ(2)】生産者と共に食の安全を確認・検証しながら、産地支援、地産地消を取りもどそう！

「収穫の秋」・・・しかし今年は私たちの主食「コメ」の安全性確認から。まずは宮城から稲ワラ汚染問題で揺れた宮城。おコメは大丈夫？

宮城・黒澤さんのおコメ

放射能検出せず！



安心して食べて下さい！

次週9月2回はいよいよ「茨城のお米」(めぐみちゃん、やさと)は大丈夫か！9月下旬に「千葉のお米」(荒井さん)、10月に「山形のお米」の検証に。

【「発酵と復興」、2011年 秋のせいきょう強化月間 5つの柱】

- (1)「放射能に負けない身体作り～基礎免疫強化」を日本型食生活と発酵食品で！
- (2)生産者と共に食の安全を確認しながら産地応援・地産地消を取りもどそう！
- (3)脱原発と暮らし見直し。平和と安心の社会づくりを。
- (4)放射能汚染実態の調査で地域の子どもたちを守る活動をすすめてみましょう。
- (5)生産者に添いながら震災復興自立応援、福島再生応援をすすめてみましょう！

中刷りで、「今週の復興応援商品」「今週のおすすめ発酵食品」ご紹介！

【宮城県湧谷町 黒澤さんの提携米】

地揺れ裂けた母なる大地に祈りを捧げ 生産者・消費者が共に豊穡のたよりを歓ぶ

放射能出なくてよかった！ありがとう。
宮城黒澤さんより自家採種の新米「おもてなし」からスタート。



備蓄米を放出し、被災地石巻への炊き出しに追われた3月～4月。4月22日毎年恒例の「地鎮祭」。今年は特別な年でした。



苗に祈りを込めて母なる大地に初植え

地震にもめげず大地から生まれ出たカフトエビ。除草頑張ってくれました。

クモも頑張りました。田んぼの生きものも復活。

伸嘉さん夫婦。お父さんと共に。

【検査機関による検査結果】(速報)

「おもてなし」、「ひとめぼれ」(豊穡米)
粳、玄米ともに放射能不検出。

放射性物質検査結果 速報

黒澤 重雄 様
黒澤 伸嘉 様

日本環境科学株式会社
担当:佐藤

試料受付日: 平成23年8月17日
検査日: 平成23年8月17日

試料名	検査結果(Bq/kg)		
	I-131	Cs-134	Cs-137
粳(おもてなし)	不検出	不検出	不検出
玄米(おもてなし)	不検出	不検出	不検出
白米(おもてなし)	不検出	不検出	不検出
玄米(ひとめぼれ)	不検出	不検出	不検出
粳(ひとめぼれ)	不検出	不検出	不検出

※ 検出限界は、5Bq/kg

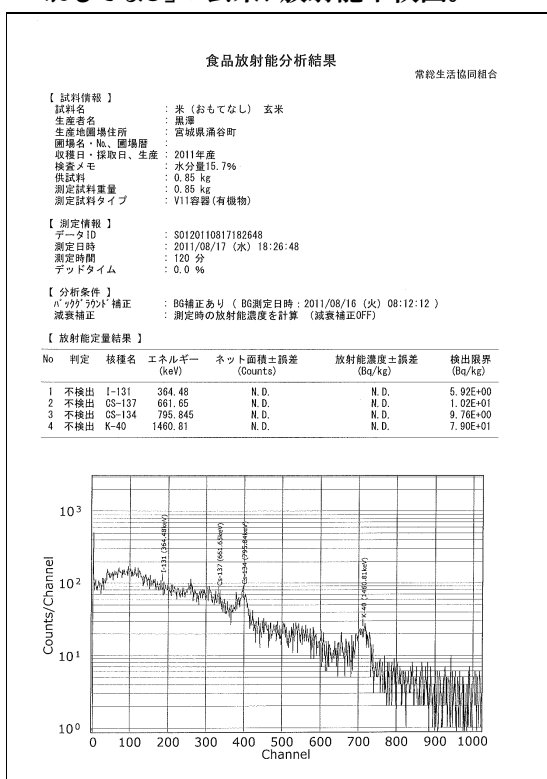
(測定機関)日本環境科学(株)
山形県山形市高木

(測定器)ゲルマニウム半導体検出器→



【常総生協独自検査結果】

「おもてなし」の玄米、放射能不検出。



(測定器)日立アロカメディカル社製 CAN-OSP-NAI

【放射能汚染・・・お米の安全性】

宮城県でも注目される黒澤さんのお米

放射能検査用の手刈りを報じる毎日新聞。宮城でも常総生協の独自検査が注視されている。

宮城 2011年(平成23年)8月16日(火)

毎日新聞



放射性物質測定用に手刈りされる早稲種の「おもてなし」＝湧谷町で

湧谷の「おもてなし」農家が
検体用に刈り取り
生育中の稲穂の放射性
物質測定を独自に行う涌
谷町の専業農家、黒澤重
雄さん(63)は15日、早稲
種の「おもてなし」の一部
を検体用に刈り取った。
天日干しをしてからも
み、玄米、白米のそれぞ
れ2ギ分を山形市の厚生
労働省登録検査機関に送
る。結果は17日夕に判明
する見込みで、黒澤さん
は18日に公表する方針。
黒澤さんは計35畝で8
種類の米(生産量約10
0ト)を生産し販売まで
を一貫して手掛けている
。安心・安全な米を生
産・販売するために国や

県の検査と別建てで測定
すると決めた。9月中旬
からは「コシヒカリ」「ひ
とめぼれ」「ササニシキ」
など7種の測定も進め
る。1点4万円の検査費
は黒澤さんが負担する。
「おもてなし」の検査
で暫定規制値の1キログラ
ムあたり500ベクレルを超
える放射能を測定した
場合、全ての11年産米を
出荷停止にする方針。暫
定規制値以内だが、同3
00〜400ベクレルと高め
の数値が出た場合は県に
相談する。低い数値なら
茨城県の常総生協などの
契約先に出荷する。一方、
常総生協は新米の放射性
物質測定を独自に行い公
表する。【小原博人】